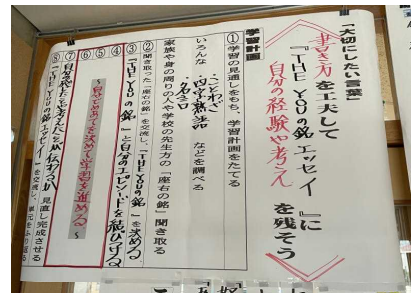


金沢市立小立野小学校	小学校教科推進校	国語科
------------	----------	-----

1 研究の重点と具体的な取組

重点1 付けたい力を明確にした主体的学び

- ・単元や付けたい力(資質・能力)を具現化・明確化して単元を構想する
- ・児童の強い思い入れを引き出すしかけや、共通教材の位置づけや単元構成の工夫をする
- ・児童自身が主体的に自分のめあてに沿って学習を展開できるような交流の取組を見取りの観点を明確にし、見取りを生かして深い学びを実現するための手立てを具体的に



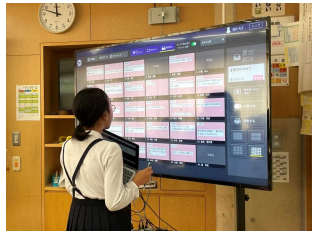
※学習計画の枠組みの弾力化

重点2 対話的交流による深い学び

- ・対話的な交流になるように学年に応じた反応の仕方や視点、交流の形態を計画的に指導する
- ・児童自身の困り感やめあてに沿って、深い学びが実現するような交流にする



※めあてを確認



※交流相手を判断中



※モデルを参考にする様子



※交流の様子

2 取組の検証

	検証方法	内容	A	B
重点1	年度末教員意識調査	重点1の取組は参考になった	80%	20%
重点2	年度末教員意識調査	重点2の取組は参考になった	80%	20%
重点1	年度末教員意識調査	重点1の実践を通して授業力が向上した	55%	45%
重点2	年度末教員意識調査	重点2の実践を通して授業力が向上した	50%	50%
重点1	年度末教員意識調査	重点1の取組は児童のためになった	55%	45%
重点2	年度末教員意識調査	重点2の取組は児童のためになった	60%	40%

A: とても参考になった・とても向上した・とてもためになった

B: 参考になった・向上した・ためになった

3 成果と課題

- 児童自身が自分の現在地を確かめ、調整しながら自律的に学習を進めていく意識を向上させることができた
- 特に書くことの単元において、学習計画の枠組みの弾力化を図り、自分のめあてに沿って学習を自律的に進めることができるような単元構成にすることができた
- 学校図書と連携し、選書、モデル提示、本紹介等を通して付けたい力への方向付けや関連図書への意欲付けができた
- 児童自身が自分のめあてに対する自己の変容を感じるためにICTを活用することができた
- 自分のめあてに沿って学習を展開していきけるような学習環境の工夫することができた
- 個人のめあてに迫るために、自立的に交流相手を判断できるように、個々の思考の接点を見つけられるような手立てを工夫することができた
- ▲指導事項を身につけたために、設定した言語活動が妥当だったが、児童にとって魅力的な言語活動だったかを省察し、事後の実践につなげていくこと
- ▲一人一人に課題意識を明確にもたせること
- ▲学校としての「個別最適な学び」の系統性を明確にすること
- ▲付けたい力や本時のねらいを明確にもち、見取りの内容を具体的に持つこと
- ▲一人一人の学習状況の見取りを精緻に行うこと
- ▲「個別最適な学び」とどのように一体化を図るか手立てを具体的にすること
- ▲ファシリテーターとしての役割への教師の意識改革をすること
- ▲評価を踏まえた単元構成にすることで、確実に国語の資質・能力を育成すること